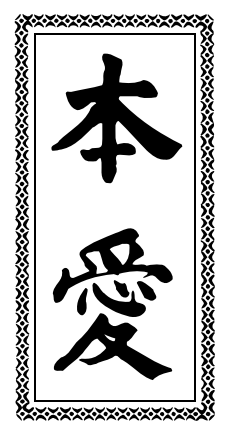


立教の元一日に思い致し

秋空の下 秋季大祭執行

大教会の秋季大祭は10月13日、晴天のご守護のもと、厳かに執行された。祭典終了後には、本部員・諸井慶一郎先生による神殿講話が行われた。



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

立教の元一日に由来する大教会秋季大祭は10月13日、神殿で厳かに執り行われた。

安藤吉人大教会長は、祭文の中で「私も教会長ようぼく一同は、今日の吉き日を迎えて、改めて立教の元一日の理に深く思いを致し、教祖のひながたの道を辿り、一層の成人を期して、本愛ようぼく一同が、身近な人のたすかりを願い、人たすけの実践に奮励努力させていただきます」と奏上した。

この後座りづとめと十二下りのてをどりが、いとも陽気に勤められた。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言は解除されたもの

活動目標
喜びの旬
おたすけの日々
楽しみの道

の、大教会ではアルコール消毒液が用意され、参拝者同士の間隔を空けるなど、感染防止対策も行われた。

諸井慶一郎先生が巡教

次号に神殿講話要旨
祭典終了後、諸井慶一郎・本部員による神殿講話が行われた(写真)。



たに込められた教理などについて、自身の体験も交えながら詳しく話した(次号に要旨掲載)。
神殿講話に引き続いて、大教会長が挨拶し「新型コロナウイルスも徐々に収束に向かいつつある。ただ、今さまざまな部分で進めている改革の歩みは元に戻してはならないと思う。変えるべきものと変えてはならないものをしっかり見極めていきたい」と話した。

3 教会が直轄教会に
10月13日をもって左記の3教会が大教会直轄教会となる旨が発表された。

- 大教会の直轄教会は69カ所、部内教会は54カ所、教会数は計123カ所となった。
- 本豊國分教会
- 本尾州分教会
- 本愛アトランタ教会

11月のこよみ	
入社祭	1日 午前10時
よふき会例会	2日 午前10時
月次祭	13日 午前10時
青年会例会	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前10時
むつみ会例会	16日 午前10時
こども食堂MOGU	17日 午後5時
こはる会例会	18日 午前10時
婦人会例会	20日 午前10時
こかん様に続く会	21日 午前9時50分
ほんあいOKEIKO	21日 午前10時
本部月次祭	26日 午前9時

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



前回は安藤正吉初代会長の入信のきっかけとなった東本大教会初代会長・中川よし先生のお言葉を紹介しました。今回ももう少し、よし先生について触れたいと思います。

よし先生は明治2年、兵庫県多紀郡篠山町に生まれ、19歳で中川弥吉氏と結婚されます。結婚から2年後の明治23年、弥吉氏の姉・高向いよ氏からにをいがかり、敬真組（後の南大教会）の信徒になられます。当時二人が生活を共にされた家は京都府船井郡東本梅村字赤熊（現在の亀岡市）にあり、いまは南大教会部属丹陽分教会となっています。

先日、この丹陽分教会に

お邪魔させていただきました。同教会には今もよし先生が書き残された資料などが多く残っています。

よし先生は幼い頃から母親が頭の出来物で

臥せっていたとき、治癒を祈って村の地蔵に毎日願掛けをされたそうです。よし先生の信心深いお人柄は、入信以前から養われていたことが分かります。

その時の地蔵が後に撤去されそうになった際、丹陽分教会ではこれを引き取り、現在も教会の敷地内に保存しておられます。



丹陽分教会に今も残る、中川よし先生の信仰心を偲ばせる史跡（地蔵）

純粋な気持ちで、真剣に神様におすがりする——。自分自身、それほど真剣に誰かのたすかりを願うことができていたのだろうか？と反省しました。

資料を拝読すると、弥吉氏と共に、息子の庫吉氏を連れて東京布教に赴かれて以降、その篤い信仰心は燃え上がったかのようです。

教祖のひながたをただひとすじにたどるその姿が、

正吉初代会長を含め多くの人を感化し、心を動かす原動力になったのではないかとそのひたむきさ、純粋に道を求める姿が、信者たちへと受け継がれていったのではないかと感じました。

家族の中のほこり

書き残された資料を比べてみると、よし先生の悟りと、正吉初代会長のそれとは、やはり少し異なる部分があります。

しかしその中でも共通し

ていることは、悟りの中に「親不孝」や「夫婦不和」といった言葉がよく見られることです。

正吉初代会長自身が、自分の入信について「子供の病氣病死について、精神的よりの原因を知りたいので教師（注・おそらくよし先生のこと）につき尋ねますと、家庭の不和にあると片付けられたのであります」

「一家での荒い言葉は大風の如く、一家に泣く者あれば家中に雨がふると、世界と一家は同じものと、私は悟らして頂いた」と書いています（『用木の道』）。

八つのほこりは、親子や夫婦といった家族の中でこそ、立ちやすい。毎日顔を合わせる関係の中で、どのような心遣いをしていくかが最も大切であるということとを、よし先生の教え、さらには正吉初代会長の入信のきっかけの中に見出すことができるのです。

連載の内容を YouTube でご覧いただけます！

今回の連載の内容を動画でも配信中！
『本愛誌』連載企画と一緒にご覧いただくと、より理解が深まります！



チャンネル登録

【運命の転換点】現代に生かす「信の生涯」シリーズ1 | 本愛大教会のなり

教理随想



言わん言えんの理を探る

私たちは日頃、さまざまな道具や設備を使いながら生活しています。その一つが照明で、近年は省エネである上に耐久性に非常に優れたLEDが普及し、進化を続けています。またテレビをはじめとする映像機器も生活とは切り離せなくなり、この分野でも技術革新は止まるどころを知りません。

そしてエアコン。ひと昔前の冷房機は高価で贅沢品のイメージでしたが、今ではコストも下がり生活必需品となりました。これらの生活道具に共通するものは何でしょうか。それはいうまでもなく、電気です。

東日本大震災による原発事故以来、エネルギー政策を見直そうとする動きが加速して、太陽光などの再生可能エネルギーが注目を集めています。ただ将来的にはまだ不透明なため、今は火力発電に頼るところが大きいのが現状です。いずれにしても現代生活に電気が不可欠であることは間違いありません。この図式と似たことが、私たちを取り巻く世界と人間の体にもいえるのではないのでしょうか。

人間は親神様のご守護の中に生かされていますが、それは大別して三つの守護に分かれます。一つ目は毎日使うこの体です。呼吸、循環、消化、吸収、排泄をはじめ、数えきれないほどの精巧で緻密な働きを自分でコントロールしている人はいません。この見事な体の構造はすべて親神様からの借り物です。

二つ目はこの精巧な体に熱と潤いと栄養を与えてくれる自然の恵みです。これも人間の力で制御できるものではなく、教祖は「火水風」という表現を使って親神様のご守護であることをご教示くださいました。

【第83回】

十全の守護に報いる信仰が 運命好転と繁栄の礎となる

三つ目は、親から子、子から孫へとつながる命の流れです。おふでさきに、たいないゑやどしこむのも月日なり むまれだすのも月日せわどり (六一―131)

■ 枝葉が伸びるのと同じ

人間はこうした三つの大恩を受けることによつて生きられるわけですが、ここに共通するものは何かというところ、それが「十全の守護」であります。

人間はこうした三つの大恩を受けることによつて生きられるわけですが、ここに共通するものは何かというところ、それが「十全の守護」であります。

くにとこたちのみこと 人間身の内の眼うるおい、世界では水の守護の理。

おふでさきには、いかほどにみゑたる事を ゆうたとして もとをしらねばハかるめハなし (四―81)

「十全の守護」の教理は、非常に簡潔に体の働きが表現されていますが、そこに込められている意味は深く、人間の一生から親子のつながり、さらには地球全体の働きにまで及ぶ、壮大な意味を含んでいるのです。

と教えられます。いつも心の焦点を、目には見えない親神様の十全の守護に合わせ、今日までに頂戴したご守護と、今ここに生かされているご恩に報いる心を定めて、報恩の信仰に前進していきましよう。

冒頭に例として挙げた電

